

肝臓腫瘍の一例

神戸赤十字病院 病理検査室

高橋 卓也

【症例】 40 歳代後半、男性、会社員

【主訴】 検診で異常陰影を指摘

【現病歴】 会社の検診で胸部異常陰影を指摘され近医を受診。胸部は陳旧性の感染性病巣と考えられたがその際行った CT 検査で肝臓に SOL を指摘され当院へ紹介受診。画像検査で長径 3 cm 大の腫瘍が認められた(画像的には悪性リンパ腫や炎症性偽腫瘍(S/O)。臨床データで肝炎ウイルスマーカーは陰性、腫瘍マーカーも上昇なし)。約 2 ヶ月ほどの経過観察で腫瘍の増大傾向はみられなかったが、確定診断目的で開腹肝臓針生検を施行。迅速診断にて悪性と診断され肝前区域切除術が施行された。

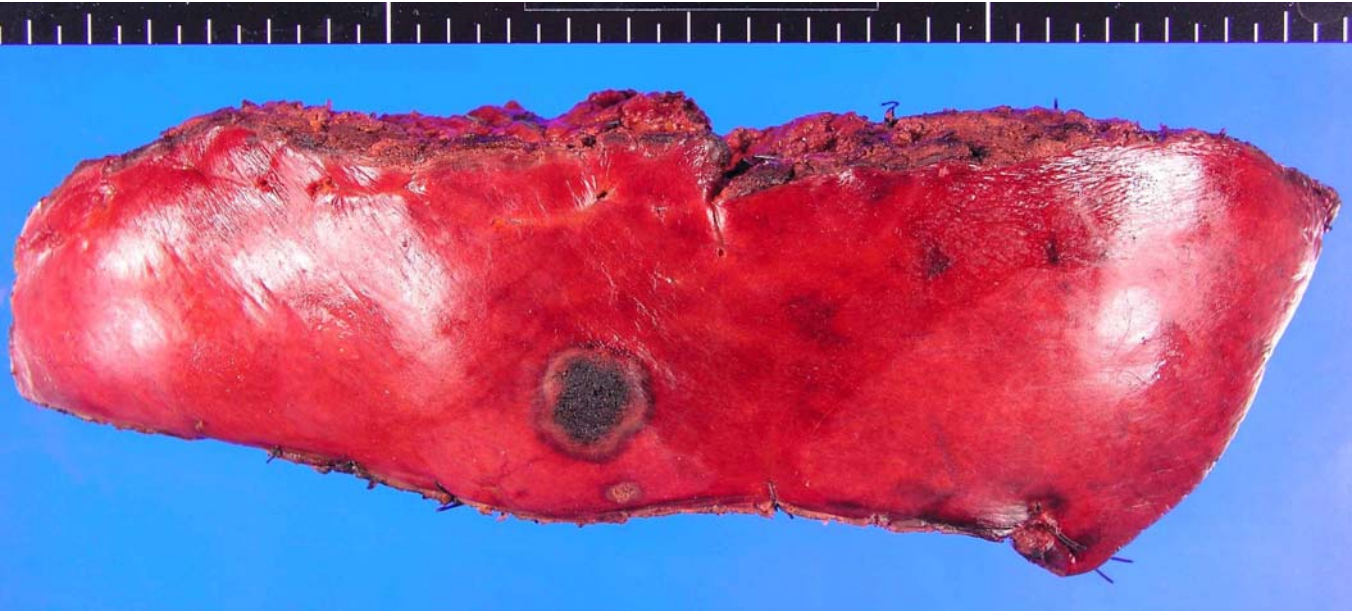
【病理検体肉眼所見】 断面にて大きさ 35x40x30 mm の境界明瞭な硬い腫瘍がみられた(main 腫瘍)。また main 病変から腹側側に約 2 cm 離れた肝実質内(被膜直下ではない)に長径 5 mm の境界明瞭な白色結節が、その他肝実質や被膜直下に米粒大の白色微小結節が多数みられた。

main 腫瘍から作成した標本を No.1、非 main 腫瘍から作成した標本を No.2 として配布します。

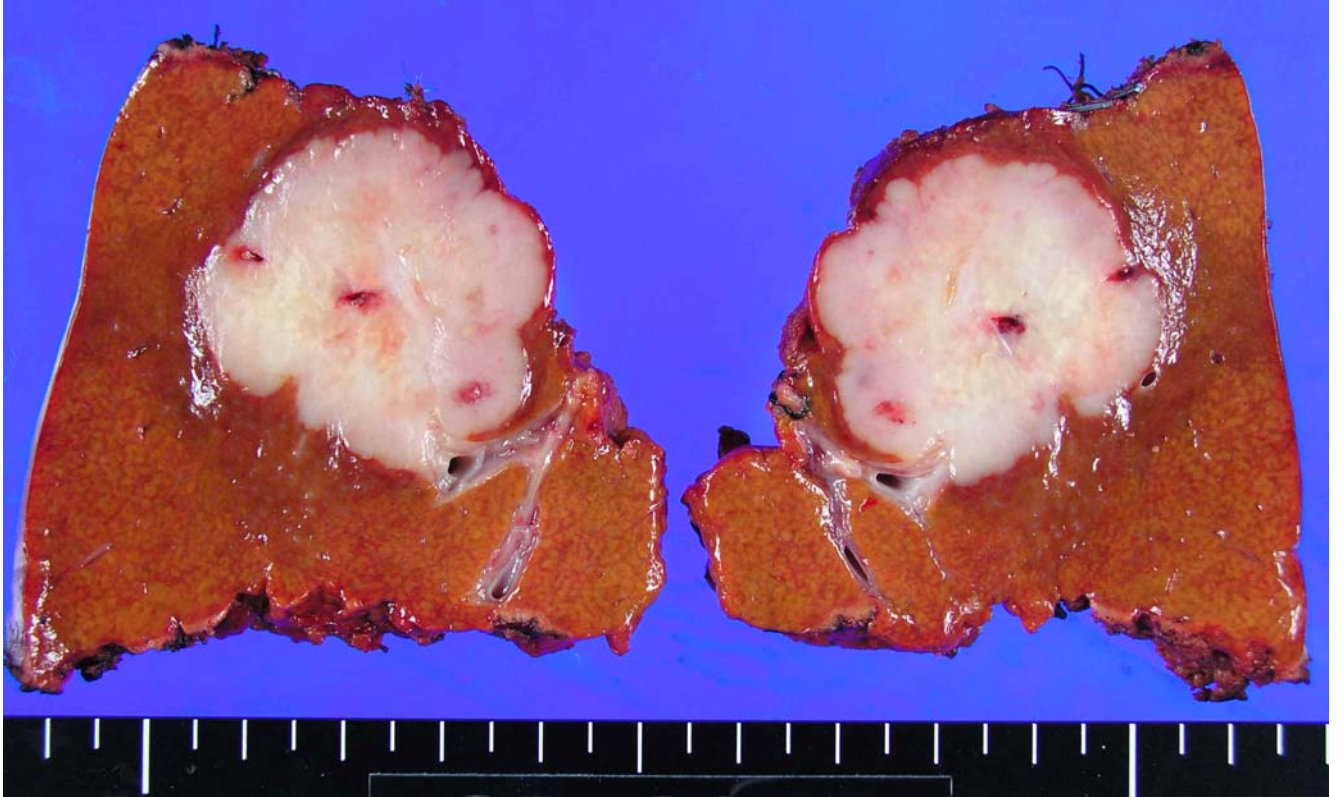
【問題点】 main 腫瘍の病理組織学的診断。main 腫瘍と非 main 腫瘍との関係。

(お詫び:非 main 腫瘍は微小なため No.2 標本にきちんと病変が出ていない標本があります。そのような標本があつた方はお許し下さい。)

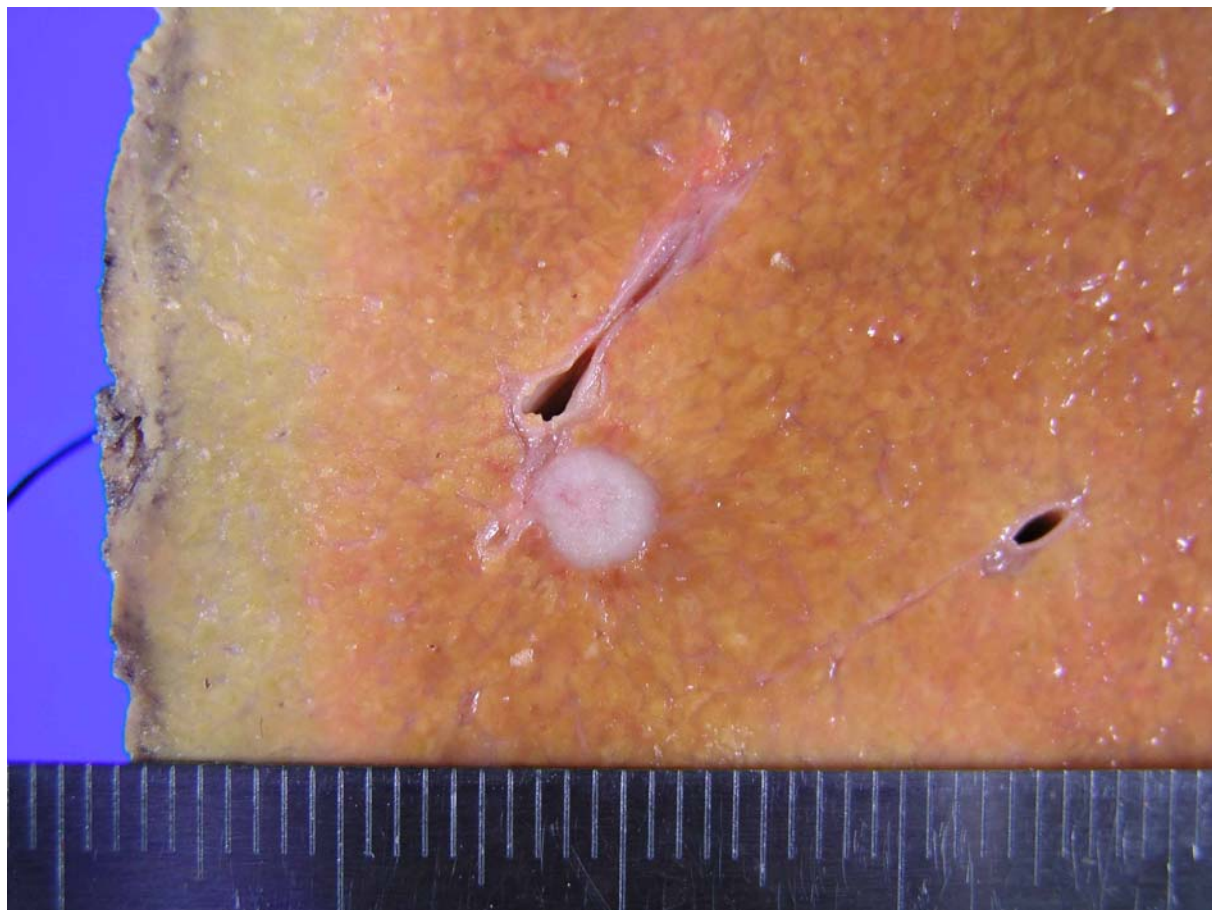
① 肝臟前區域切除材料 (未固定)



② main 腫瘤未固定剖面



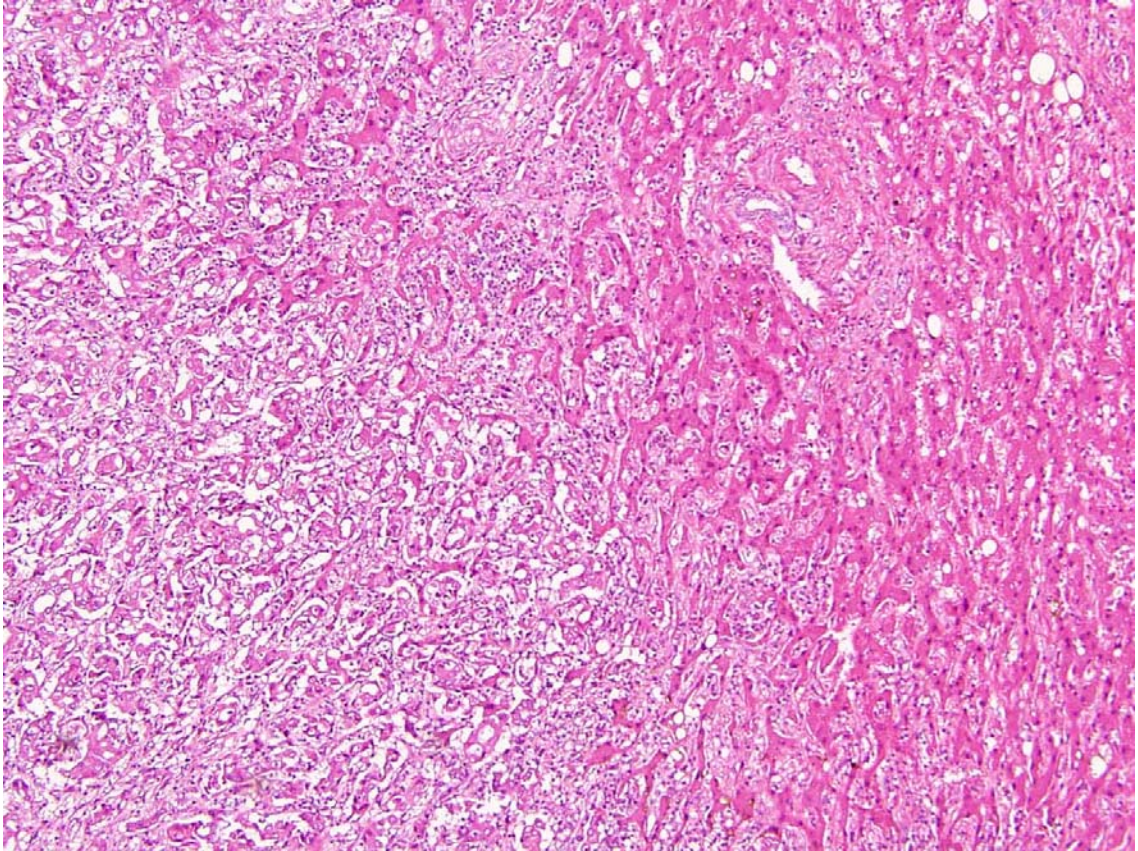
③main 腫瘤近傍の腫瘤 (固定後)



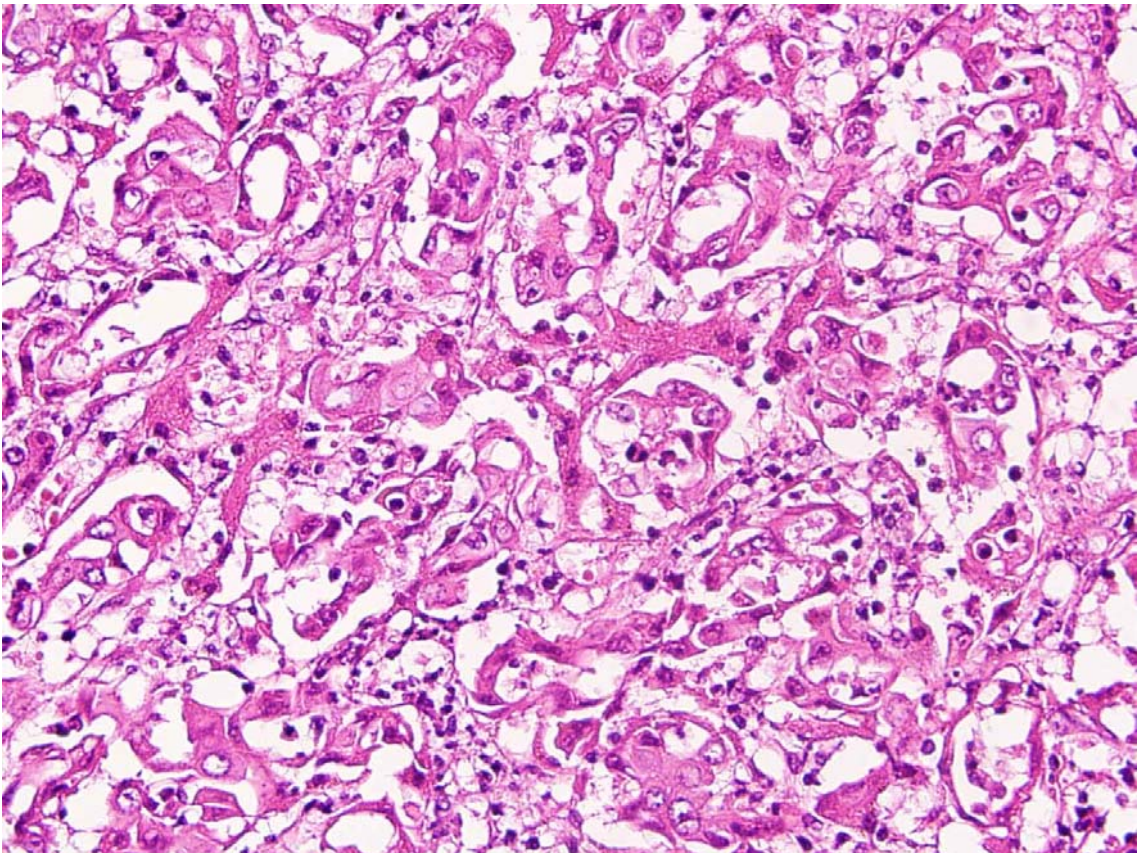
④被膜直下の微小腫瘤 (固定後)



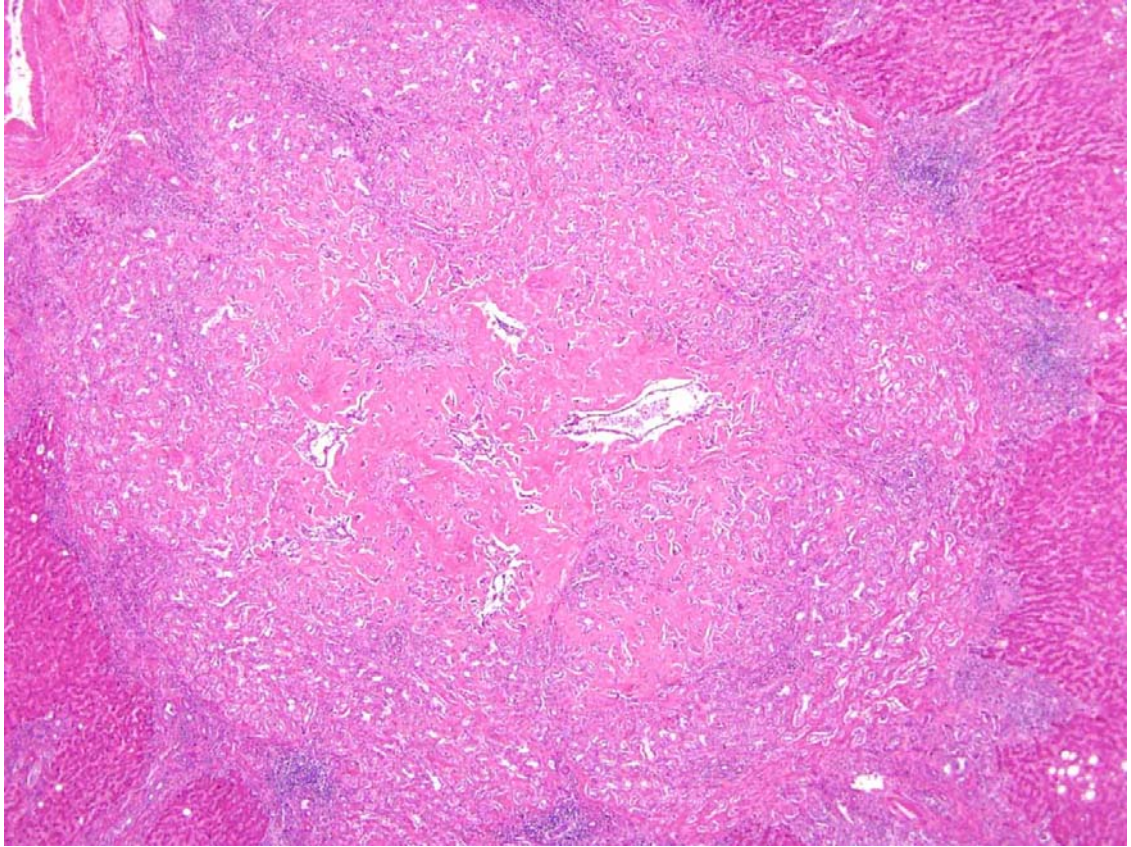
⑤main腫瘍：非腫瘍部との境界 (弱拡大)



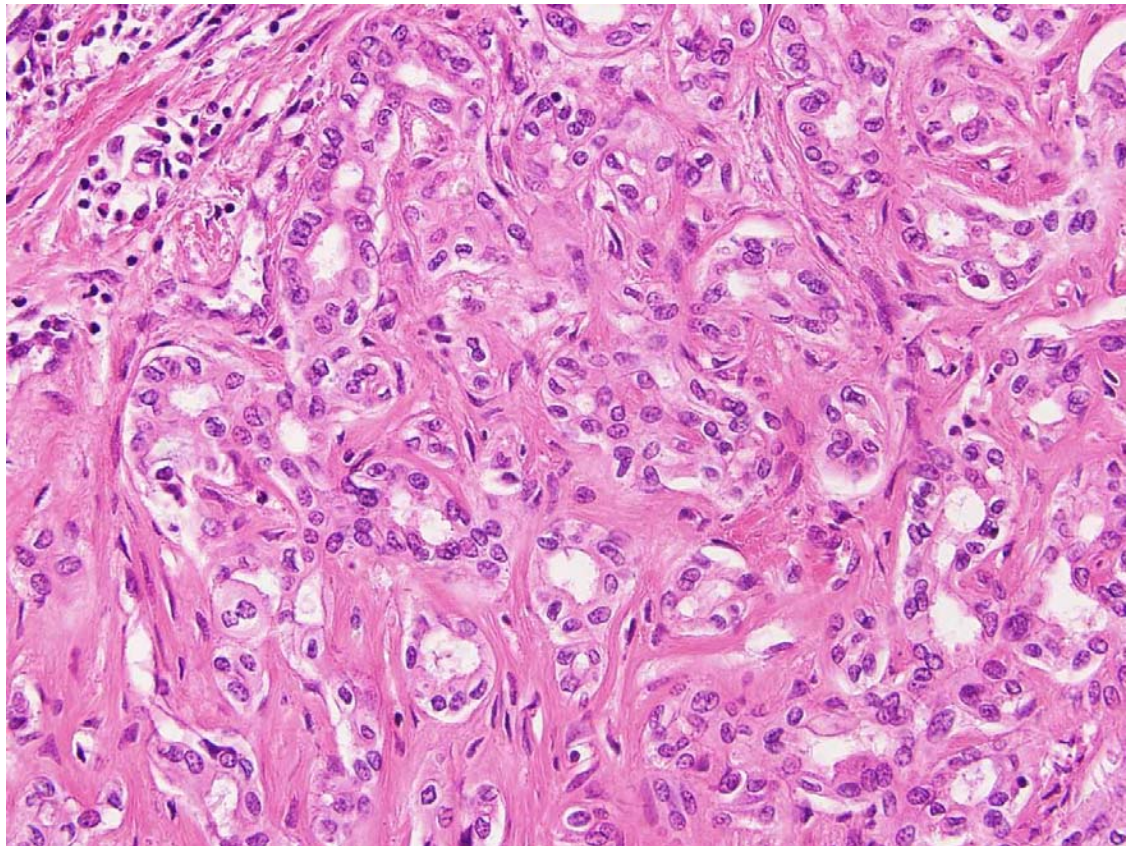
⑥main腫瘍 (強拡大)



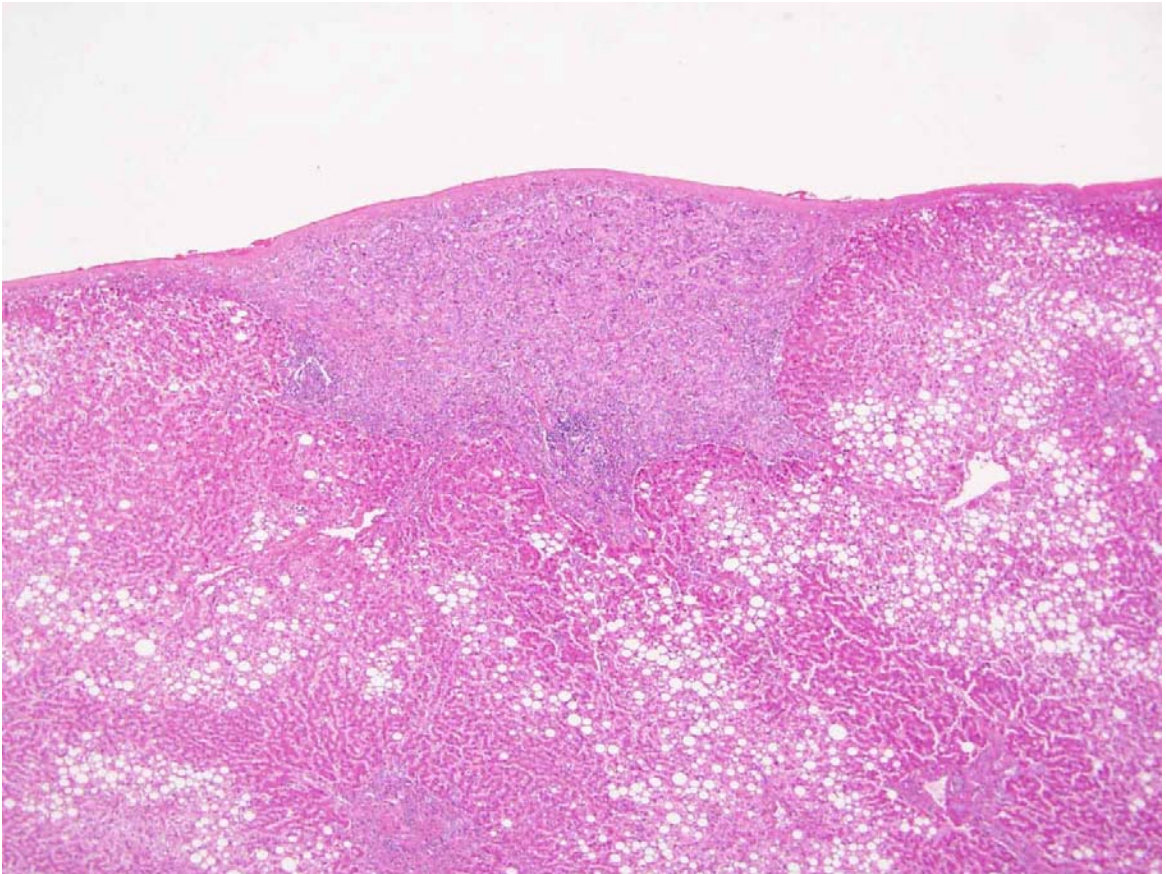
⑦main腫瘍近傍の腫瘍(弱拡大)



⑧main腫瘍近傍の腫瘍(強拡大)



⑨被膜直下の微小腫瘍（弱拡大）



⑩被膜直下の微小腫瘍（強拡大）

